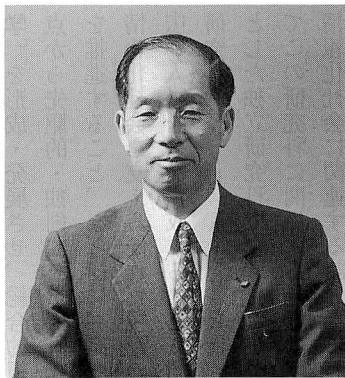


# 洛友会会報

京都大学工学部電気系教室内  
洛友会  
〒606-8202  
京都市左京区田中大塚町49  
075-701-3164

## 理論と応用

東京支部長 近藤光洋(昭31年卒)



昨年11月に、京大電気教室創立100周年記念事業について会議を開くので、集まってほしいとの要請で久しぶりに京都に出かけました。その後たまたま大学祭をやっているとと言われるので電気教室を覗いてみました。

なつかしい玄関(新築のビルに昔のものが残されている)を入ると、各種の研究内容や成果が壁に張られていましたが「エレクトロ

社の先輩からしごかれて読まれた知識が、その後の仕事の中で生かされてきたと思っております。私は、このところ会社を経営する立場に立たされておりますが、経営の基礎理論(と私は思っています)が、他人はそう思っていないかも知れません。)というのは、学校でも会社でも系統だつて教えられた経験がありません。

米国では、経営学を学んだ経営者が多いようで、他の学部を卒業し就職した人が、将来の経営者をめざして改めて経営学を学ぶ人も少なくないと聞いております。(一部、理論と応用の経営をすることへの反省がある様ですが)

私の場合、米国のMBA取得のための教科書を見たり、OR(オペレーションズ・リサーチ)の研究を受けたりして学んだことを実際の経営の場でいろいろと応用をしてみました。

こうした経験から理論は難しいけれど応用は簡単なものや、理論は簡単であるけれども現実に応用しようとする、やっかいで失敗が多いものなど理論の応用には相当地験が必要が少しづつ分かってきました。(当たり前前の事です)

例えば、「在庫管理」は前述の教科書でもORの本にも簡単に書かれており、理論自体は誰にでもす

ぐ理解できるものです。しかし現実には多くの会社で沢山の在庫をかかえて資金繰りに四苦八苦したり、逆に在庫切れでお客様に迷惑をかけたっており、「在庫管理」は、応用が難しいと考えますのは、現実には管理する品目が非常に多かったです。需要の発生が非常に難しかったりするためだと思えます。これは、在庫管理の数式は過去の需要発生パターンが今後も続くという前提条件になっていますが、商品の性格で思わくのが発生したり、成熟期で需要が減少したりでこの前提条件が必ずしも満足されないのが現実です。

もう一つ例をあげますと、当社は銅をベースとするビジネスをしておりましてで国際的な銅の価格の変動が会社の経営に大きい影響を与える可能性があります。そのためリスクヘッジをしておりますが、これはORで言うところの「ゲームの理論」に基づいたもので理論自体はそんなに難しいものではないと思いますが、ある銅の価格の予測を前提としているもので、この前提条件をよく吟味して採用しないと損をする事になりかねません。(この商品を売り出している証券会社では、リスクヘッジを何重にも複雑に組み合わせており、理系のメンバーがコンピュータ計算をして商品開発をしている様で

す) この前提条件をよくチェックすることは実験のデータを整理して結論づけるのと同じことだと思っております。例えば、工程能力を把握するとき測定データが正規分布することを前提に算出するのが一般的ですが、こうした前提条件は、工学系の人はちゃんとチェックする習慣がついている様に思います。

最近、工学の分野だけでなく経済など社会現象の分野でも「複雑系」が話題になっていますが、これはモデルが同じでも初期条件で結果が大きく変わることがあることを教えております。

現在は社会の変化が激しくて先が読めないとか、先が見えないという話が少なくありません。すべて世の中が理論どおりに行くとは思いませんが、工学系の一人として経営に当たっても前提条件をよく吟味し、一つ一つモデル化して課題の解決に当たって行けばこの厳しい時代に耐えて行けると信じている今日この頃です。

未熟な経験をご披露しましたが、いい知恵がありましたらお教え願いたいと思います。

大学の動向

情報学研究科について

平成10年4月より新しく情報学研究科が発足します。この研究科は「高度情報化社会の健全な発展に資する学問的基礎を確立し、情報およびその基盤システムを創発する基礎科学としての「情報の学」を形成・発展させ、総合的視点から先駆的・独創的な学術研究を推進すること、ならびに、高度情報化社会を支える優れた視野の広い人材を多数育成すること」(同研究科パンフレットより)を目的とした独立研究科です。したがってこの研究科に關係する分野は、情報化社会に關連する諸分野にわたり、社会における各種の情報処理から、それを支える計算機や通信のようなインフラ技術、さらにその基盤となる情報、数理、システム、電子工学、脳・神経生理などの基礎学問分野まで含んでいきます。

情報学研究科には現在の工学研究科より四専攻が参加しています。電気系からは電子通信工学専攻の一分野を除く残り全部、他に情報工学、数理工学、応用システム科学の各専攻が移り、また理学研究科、農学研究科、文学研究科、総

合人間学部からも教官が参加しています。新研究科の構成は、知能情報学、社会情報学、複雑系科学、数理工学、システム科学、通信情報システムの六専攻から成り、講座数は42基幹講座、12協力講座です。電気系から移行した基幹講座の分野(研究室)は知能情報学専攻の言語メディアと画像メディアの2分野、通信情報システム専攻のデジタル通信、伝送メディア、知的通信網、情報回路方式、大規模集積回路の5分野で、他に超高速信号処理分野が新設されています。

新研究科の学生定員は修士課程165名、博士課程74名です。工学研究科から移行する教官は、工学部の教育に責任を分担しており、電子通信工学専攻から移行する教官は電気電子工学科の学生の教育については今までと同じように行うことになっていきます。したがって学部学生は大学院進学時に工学研究科の研究室と情報学研究科の研究室に分かれることとなります。なお新研究科が出来ても建物は無いので、各研究室の場所は従来のままです。第一回の修士課程学生は平成12年3月に修了しますので、就職等につきましてはこれまでの工学研究科の学生と同様に配慮させていただきますようお願い申し上げます。

田丸啓吉(昭33年卒)記

教室だより

平成9年度電気系教室

卒業生の進学就職状況

電気電子工学科科長兼 電気工学専攻長 昭和34年卒 上田皖亮  
電子物性工学専攻長 昭和43年機械卒 橘 邦英  
電子通信工学専攻長 昭和49年卒 松山隆司

平成9年度の電気系教室卒業生

の進学ならびに就職の状況をご報告申し上げます。

本年度卒業生

本年度の卒業生は別表にありますように、学部146名、大学院修士課程98名でした。このうち学部からは本学修士課程への進学が10名ですが、その内訳は工学研究科(電気系)52名、情報学研究科45名、エネルギー科学研究科12名、理学研究科1名で、就職が22名でした。また修士課程からは本学博士課程

への進学が6名(内訳:工学研究科(電気系)3名、情報学研究科1名、エネルギー科学研究科1名)、就職が92名でした。

長年にわたり諸先輩が築いて下さった実績のお陰で電気系教室へ求人を下さる会社の総数は就職希望学生数の3倍近くに、大変有難いことですが大部分の学生は先輩の居られる企業や研究所へ目が向くことになるようです。

毎年のことではありますが、学生の就職につきまして、洛友会会員の皆様にはいろいろと御高配、御援助をいただきました。教室の学科長、専攻長として厚く御礼申し上げますとともに、今後とも宜しくご支援賜りますようお願い申し上げます。

教官の異動

平成10年4月1日付でつぎのような異動が発表されました。

○石川本雄(昭46年卒)助教は筑波大学構造工学系教授に就任。

○塩寄 忠(昭41年卒)助教は奈良先端科学技術大学院大学教授に就任。

○高瀬冬人(昭53年卒)講師は摂南大学工学部電気工学科助教に就任。

平成9年度卒業生進学就職状況

平成10年3月10日

種別	修士	学部	進学・就職内定先
卒業予定者数	98	142	
進学	3 2 1		京大大学院 博士課程(工学研究科・電気系) 京大大学院 博士課程(情報学研究科) 京大大学院 博士課程(エネルギー科学研究科)
	52		京大大学院 修士課程(工学研究科・電気系)
	45		京大大学院 修士課程(情報学研究科)
	12		京大大学院 修士課程(エネルギー科学研究科)
	1		京大大学院 修士課程(理学研究科)
官公庁等	2	1	建設省、京都市、電力中央研究所
電力・ガス	12	2	関西電力、東京電力、東北電力、四国電力、中部電力、大阪ガス
通信	11	0	NTT、NTTドコモ、NTTデータ通信、KDD、日本テレコム
電気関連会社	57	7	日立、東芝、三菱、松下電器、松下電工、富士通、日本電気、シャープ、三洋電機、富士電機、ソニー、ローム、住友電工、日本IBM、キエンス、NECアイシーマイコンシステム、大阪メディアポート、ウシオ電機、村田製作所、きんでん、コナミ
鉄道・運輸	1	3	JR東海、JR西日本、全日空
機械・自動車・鉄鋼会社	7	9	石川島播磨重工、富士写真フイルム、三菱電線工業、三菱自動車、富士重工、レンゴー、大同特殊鋼、ヤマハ、デンソー、東洋鋼鋳
化学関係	2		東レ、旭化成
帰国		1	Neptune Orient Lines Ltd.,
未定		9	情報学研究科4月期受験予定

### 卒業・修了証書を

### 取りに来て下さい

電気系教室

平成8年秋の洛友会会報にも記載いたしました。別表の方々の証書を教室でお預かりしてありますので、速やかに取りに来て下さい。本年8月末までは保管させて頂きませんが、9月には処分させて頂きたく、よろしくご諒承のほどお願いいたします。

#### 学士/学位記を未受領の者

卒業年	学 科	氏 名・住 所
昭・34	電気工学	村尾 久 廿日市市
昭・35	電気工学	竹田練三 川崎市
昭・36	電子工学	鈴木春夫 東京都
昭・38	電気工学	平澤真一郎 千葉市
昭・38	電子工学	横山常昭 八王子市
昭・39	電子工学	山中成介 多摩市
昭・41	電子工学	小田 西 三鷹市
昭・42	電気工学第二	徳岡弘志 高松市
昭・42	電気工学第二	池永頼央 京都市
昭・43	電子工学	和田洋夫 芦屋市
昭・43	電気工学第二	井澤榮一 座間市
昭・43	電子工学	河野祥久 日南市
昭・44	電気工学	渡邊脩二 前橋市
昭・44	電気工学	井内啓二 徳島市
昭・45	電子工学	脇 一幸 神戸市
昭・45	電子工学	玉石良次 新座市
昭・45	電気工学第二	青木 勉 松山市
昭・45	電子工学	相賀良久 札幌市
昭・45	電子工学	高屋敷哲也 札幌市
昭・45	電子工学	豊田浩一郎 枚方市
昭・45	電子工学	中島俊雄 横濱市
昭・45	電子工学	山田 稔 飯能市

#### 博士/学修証書を未受領の者

修了年	学 科	氏 名・住 所
昭・44	電気工学	岩本宗夫 奈良市
昭・49	電子工学	浅谷耕一 横須賀市
昭・49	電子工学	宮武貞夫 京都市
昭・47	電気工学	早川正人 大阪市
昭・47	電子工学	田中尚志 稲城市
昭・47	電子工学	山本 薫 藤沢市
昭・47	電気工学第二	松岡利幸 八幡浜市
昭・47	電子工学	更井正和 神戸市
昭・47	電子工学	田中則之 大阪市
昭・47	電子工学	原 秀次 大阪市
昭・48	電子工学	児玉富士夫 国分市
昭・48	電気工学第二	原田 明 藤沢市
昭・49	電子工学	麻野広光 府中市
昭・49	電子工学	今福英一 鹿児島市
昭・54	電気工学第二	市川 稔 長野市
昭・54	電気工学第二	田中章太郎 三重県
昭・55	電気工学	山本行則 東京都
昭・59	電気工学	大塚敏郎 堺市

#### 会員寄稿

### 装い一新

### 明日への夢をのせて

#### 新京都駅ビル誕生とその概要

竹原壽良(昭41年卒)

#### まえがき

景観論争を呼んだ平安建都一、二〇〇年記念事業の新しい京都駅ビル、高さ60m、全長470mと国内最大規模の駅ビルが一、五〇〇億円を投じて昨年9月に誕生しました。巨大な吹抜の「中央コンコー

ス」、天井の東西に走る200mの「空中径路」、憩の場として17段にも及ぶ「大階段」も新しい見所となっております。

卒業後国鉄に入社、のちに縁あって(株)ジェイアール西日本伊勢丹に移り、世紀の事業とも言うべきこのプロジェクトに計画当初から参加し、この度完成を見たのを機に新しい京都の玄関口ー新京都駅ビルを紹介させていただきます。

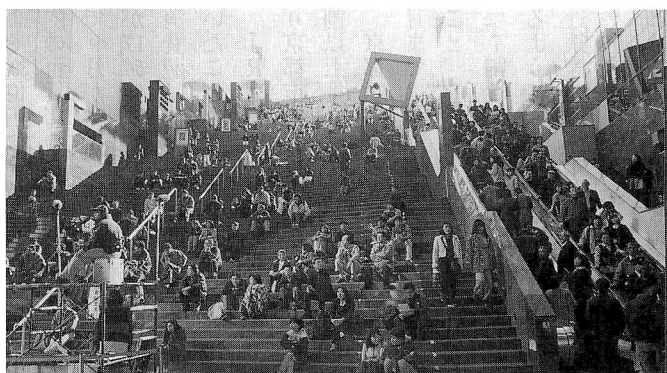
#### 京都駅ビルの建物としての特徴

すでに行かれた方も多いと思いますが、新しい京都駅ビルは駅としての機能だけでなくホテル、百貨店、専門店、劇場、美術館、駐車場、広場、通路等からなる総床面積24万㎡の複合機能ビルです。

その中心に位置する駅は一万五千㎡と床面積の割合は小さいのですが、西側の幅26m、17段の大階段と東側の段丘状の広場で囲まれた、空まで吹き抜けた大空間により、駅ビルの中で最大の位置付けを誇っています。ホテルや百貨店を一步出た広場や大階段のどこからでも、人々は駅を望むことができます。面積としては小さい駅部分を実質的にこの駅ビルの中心にするために設計者の原広司氏はこのようなダイナミックなデザインを考えたと聞いています。

もう一つの特徴は長さ470mという細長いビルで、しかも中央の駅が谷となつているため、上に行くほど東西のホテル棟と百貨店棟は離れていき、二棟が別々の建物になつてしまふ可能性があります。そこで、原氏は対岸をお互によく見えるようにするとともに、高さ45mのところ長さ200mの空中径路を作り、駅ビル全体を回遊させ一体化させています。また夜には1時間ごとにレーザー光線が大空間をはさんで交信し合います。人々はいつの間にか、距離感を忘れ駅ビルの中を上下、東西と巡り歩いてしまいます。

原氏はこういった大きなスケールのデザインを描く一方、細かいところまで気を配っています。外壁は20数種の大理石で張り分けら



れていますが、どれもが非常に優雅でおしゃれな模様を組合せています。また駅コンコースの空間の中かけられている広告は通常の商品広告ではなく、日米欧のアーティストによる芸術作品になっています。リキテンシュタイン氏による京セラ、コワルスキー氏による島津製作所などそのほとんどはロゴを見なければ広告主がわからないものばかりです。コンコースのイメージをありふれた広告によって壊されるのを拒否し、アート競争によってより設計意図を氏は高めています。原氏のこれらの設計意図は駅ビルを訪れる人には好感をもって受

けとめられているようです。私は仕事から毎日駅ビルの中を歩き回っていますが、若い人からお年寄まで、いたるところで感嘆の声をあげられるのを耳にします。

ただ私たちテナントとして商売をする者にとってはこのビルは大変効率が低い使い勝手の悪いビルです。百貨店は通常の直方体ではなく、上へいくほど西にセットバックする平行四辺形の形をしており、その中に巨大な吹抜け空間が斜めにくり抜かれています。店として売上の上るところは吹抜けで何も使えず、家賃と空調費ばかりがかさみます。

しかしこの壮大な非効率率が百貨店を訪れる人々にほっとした気持ちと楽しさを与えてくれます。京都市内の他の百貨店との一番の違いはこの建物デザインによるもので、集客の大きな要因となっています。

### 高さ問題と設計コンペ

京都駅ビルがこのように雄大でゆとりの空間にあふれ、かつ優雅さを兼ね備えた建物になったのは、**国際コンペ**でその設計を決めたことによるところが大きいと思います。今もそうですが、当時京都は京都ホテル問題もあり、高さや景観問題が大きな議論を呼んでいました。そのような中で高層の近代的ビルを作ることは批判的な空気が漂っていました。しかし京都

駅ビルは一千億円を越す大事業で京都でも百年にいくつもないプロジェクトであり、百年前の疏水や水力発電、市電、平安神宮、時代祭のように**建都一、二〇〇年の記念事業**として後世に残るものになりたいというのが関係者の気持ちでした。

そこで考え出されたのが**国際コンペ**という手法です。これは世界的に著名な建築家を選び設計コンペを行う。設計に際しては「**国際文化観光都市京都の玄関口にふさわしい格調の高さとシンボリックな形状を持ち、京都の新しいランドマークとなる**」建物をデザインしてもらおう。そしてその中で最優秀に選ばれた作品を実現するため、行政側に都市計画画面上所要の措置を講じていただくという事で進めることになりました。

**国際コンペ**には日本から安藤忠雄氏や黒川紀章氏等4人、海外からはジェイムズ・スターリング氏(英)、ペーター・ブスマン氏(独)など3人が参加されました。いずれも斬新で独創的なデザインでしたが、その中で東大教授の原広司氏の作品が最優秀に選ばれました。原氏の設計は雄大で斬新なものです。私たちの中でホテルや百貨店を営業する者にとっては、先に述べたように決して使い勝手の良いものではありませんでした。

私たちはその改善を求めて原氏と再三交渉しましたが、原氏は**国際コンペ**を理由に基本的なところは絶対妥協してくれませんでした。しかし今考えてみますと、妥協を拒否されたその意思により、人々を魅了するこの建物ができ上がったのだと思います。

### 京都駅ビルの電気設備

ここで京都駅ビルの電気設備を簡単に紹介します。

**受電設備**は22KV3回線スポットネットワーク交流3相3線式で2次側は6.6KV、トランスバンク数は**駅ビル全体で154**、トランス容量は**四四、〇〇〇KVA**です。また氷蓄熱用として深夜電力専用の**ファイダー**を設けています。また**コージェネレーション**を併用しており、非常兼用常用発電機として**二、一〇〇KW**を2台設備しています。さらに**一、六〇〇KW**の非常専用発電機を1台備えています。非常照明、受電制御用の蓄電池設備は**54セル**、**14組**で合計容量は**五、六〇〇AH**です。

**熱源設備**としての蒸気ボイラは**炉筒煙管式3台**、水管式2台で合計換算蒸気量は**42t/h**、冷凍機は蒸気吸収式4台、ターボ式2台、氷蓄熱1台で合計容量は**八、五〇〇USRT**です。

また**昇降機設備**としてはエレベータは乗用**23台**、人荷用、荷物用

24台の計**47台**、エスカレータは**95台**が設置されています。

ちにみな10月1ヶ月間の駅ビル全体のエネルギー使用量は電力**480万kWh**、水道**18万m<sup>3</sup>**、ガス**85万m<sup>3</sup>**で支払った料金は一億八千万円で年間では**20億円**近くなると思われます。吹抜けが大きいこと、ガラス面が多用されていることなどによると思われますが、同規模のホテル、百貨店に比較するとエネルギーコストは相当高く、省エネの推進が我々の急務となっています。

また**弱電関係**を百貨店について紹介すると、店内には**586Kbps**のLANが張り巡らされており、**110台**のパソコンと**250台**のPOSが接続されています。一方東京の落合にある伊勢丹データセンターの大型コンピュータと**768Kbps**のスーパーデジタル回線で結ばれ、お客様の買い上げの都度、カードの与信照会や売上データの処理がリアルタイムで行われています。また店内の売上動向を常時パソコンで見ることができ、それらをもとに売場や商品のタイムリーな変更を行っています。

### 京都駅ビルの経済効果

京都駅ビルの改築は古い駅舎の建替だけでなく、**京都駅地区に四条河原町地区に次ぐ新都心を作り、京都の活性化と経済発展に貢献すること**を目的に行われた事業です。

果してどれぐらいの経済効果があったのかをいくつもの面から見てもみましょう。

まず改築に要した総工費は内装、設備を含み約**一、五〇〇億円**です。建設資財、設備、作業人等とは関西では工事が冷え込んでいた時ですから、相当な効果があったと思います。

次に雇用の面ですが、ホテル、百貨店等の社員、パート、テナント、外注作業員を含めおよそ**五、〇〇〇人**の雇用が新たに生み出されました。

また9月から12月まで4ヶ月間で約**一、五〇〇万人**の人々が駅ビルを訪れ、駅ビル全体の売上はおよそ**300億円**に達しました。京都市内の百貨店の合計売上高は対前年で9月が**23%**、10月が**15%**、11月が**17%**伸びています。全国的には消費が対前年**5%**程度落ち込んでいたことを考えますと、

JR京都伊勢丹ができた事により京都市内百貨店全体の売上を2割以上上げたことになりました。京都駅の乗降人員が9月から11月までは対前年約**30%**伸びていること、中でも近距離券売機の売上は7割も伸びていることからわかるように、京都駅ビルにはJR、近鉄等を使って広域から沢山の人が訪れることになりました。これらの人々は駅ビル内の消費

を通じて地元商品の生産に寄与するとともに、駅ビルだけにとどまらず市内各所へと回遊され、京都地区全体の観光や消費を通じて京都経済界の発展に貢献していると考えています。

おわりに

超モダンな建物や東京テイストの百貨店、地べたに座り込む若者が追っかけるジャンプの劇場など、古都京都にふさわしくないと思われ、古都京都にふさわしくないと思われ、京都人の方もおられるかも知れません。

確かに私たち駅ビル関係者はあえて「京都らしさ」を追求せず、自分たちの最も得意とするものを展開しました。これについて私は個人的に次のように考えています。

京都は千年以上の文化、芸術、伝統を受け継ぐ世界有数の都市です。その「京都」を私たち新参者がどんなに真似たところで、それは所詮にせ物で、京都の人に評価していただけるようなものが作れるわけがありません。

一方「京都」のすごさは超モダンなビルの一つや二つができたところで壊されるような底の浅いものではありません。また京都は千年以上にわたって常に最先端のものを追求し実現してきた先駆性を持っています。

どんなに斬新なものでも、もしそれが「ほんもの」であれば京都

の人は受け入れてくれるはずで、幸い原広司氏の斬新なデザインを与えられた私たちはそれを最大限に生かすとともに、私たちの持っているポテンシャルを最大限発揮しようと思ひ、百貨店やホテル、シアターのソフトを作りました。

京都駅ビルに短期間に広い地域と各年齢層からこれだけの人が来ていただいている事、またその人たちの駅ビル内での会話から私たちが考えが大多数の人たちに支持されていると確信しています。

すごい伝統や芸術、文化を有する京都の片隅で京都駅ビルがキラリと光る何かになればと関係者の一人として念願しています。

戦中派の学生生活Ⅵ

副会長 近藤文治(昭18年卒)

b、材料力学の授業

また、機械工学科の西原教授担当の「材料力学」(略称「材力」)の講義も大変ユニークな講義であった。先生は他の先生と異なり、講義の原稿を持参されず、全部暗記しておられ、式やテクニカルタームなどを黒板の端からきれいな字で書き始め、講義の間一度も消すことなく、黒板が一杯になったところで講義終了のベルが鳴るの

である。その鮮やかさは神業的で、目を白黒させていた。チョークは前もって削ってあった。学生の間では金のナイフを使っておられるとの噂が専らだった。何しろ「西原天皇」と呼ばれ、機械工学科では絶対的な権力者であると言われていた先生だから、そんな噂が流れたとしても不思議ではない。後年直接先生に真偽の程を伺ったら「そんなことはない。真鍮のナイフが誤り伝えられたのだらう。」と笑っておられた。

講義は機械工学科の階段教室で行われ、機械の学生と一緒にだった。先生の字が小さいので、早く行つて前の方の席を確保しないとノート講義だから困るのである。朝8時から講義で、下宿生は朝起きると一番に教室に来て荷物を席に置いてから食事に行くのを常としていた。私のような通学生にはとても真似ができないので、私は何時も階段教室の上の方に陣取らざるを得なかった。しかし私には秘密兵器があった。それは兄のノートであった。兄は6つ年上であったが、機械工学科だったので西原教授の材料力学の講義を聴いていた。その時のノートが役に立った。

横に置いて見ていると一言一句違わないし、例題の数値に至るまで6年前と同じであった。兄のノートのお蔭で、例えば黒板が見えなく

とも、言葉を聴き漏らしても一向に困ることはなかった。

先生の記憶力の抜群なことには度肝を抜かれた。後年、物おじしない私は先生にこのことを尋ねてみたら、「そりゃ近藤君！講義の前には下読みするし、計算の細かい数値は万一の場合を考えて、小さなカードに書いてポケットに忍ばせているんだよ。」との答えが返ってきた。それにしても大した記憶力である。

また講義で口にされるテクニカルタームは、他の先生は英語であったが、西原教授だけは総てドイツ語であったし、黒板に書かれるテクニカルタームは英、独、仏の3ヶ国語であったことも講義をユニークなものにしていた。

材力の講義は電気の学生は前期だけであったが、機械の学生は後期もあり、更に材力演習まであった。電気の学生に対する期末試験に、機械の学生が演習で散々絞られた問題がそのまま出た。電気の学生に解けるはずがない。3、4題あったように思うが、いずれも難問であった。1題解けたらよい方だった。このままだと及第点の貰えるのは皆無である。皆んな青くなった。しかし当時、全科目が必修でかつ学年制であったので、落第点を1科目でももらうと、落第となり上の学年に進級できなく

なる。進級できないと入営延期の年限が制限されていたので学業半ばで兵隊に行かなければならない。西原教授もそれを考慮されてか、1題できてれば80点という大甘な採点をして頂いたので、首がつながつた。その後、機械の学生から聞いた話だが、昨年の試験の時、電気の学生が問題がやさしいとかなんとか言ったのが教授の耳に入り、それでは今年は難しくしてみようということになった由。機械のその学生も我々に同情してくれていた。口は災いの元」と言われているが正に至言と言うべきか。

c、教科書・算式集・プリント

教科書を使用する唯一の講義として、安藤助教授の「直流機」があった。三菱電機の技師が書かれた本格的な直流機の本を教科書にしての講義であった。教科書があると学生は予習をして教場に来るものとして講義が進む。従って授業が始まると

「何か質問はないか。」予習をしていない学生にしてみれば、「何処を質問したらよいのか教えて欲しい」と言わんばかりの顔をして、下を向いて口を尖らせていると、

「質問がなければ今日の講義はこれで終わってよいのだが、まだ時間があるので、諸君の理解度を

調べる意味でこちらから質問をする。」

皮肉たっぷりの言葉にうつむいた頭が更に下がる。

一回の講義で教科書20〜30ページ進むから、先生の質問に答えられるように勉強するのには大変な時間が掛かる。こんな科目が他に1、2科目あれば、その予習だけで全ての時間が食われてしまう。

ノート講義のノートの整理や欠席分のノート写しも、実験のレポートの作成も、何もできはしない。それほど直流機の勉強に時間を掛けて勉強してお蔭で、専門ではなかったが、教官になってから学生実験の討論などで、こと直流機に関する限り自信を持って対応できた。

また、学生実験も実験指導書が与えられるだけで、格別の講義はなく指導書を自学自習し、理解できないところがあれば、指導者に質問して実験を進めるのであるから、上に述べた教科書方式と同じとみてよい。

これとは対象的な講義に岡本教授の「電気機器」があった。講義に式が無関矢鱈と沢山出てくる。

先生にしてみれば、これを一々黒板に書いていたのでは時間が掛かり過ぎる。そこで、これらの式を予め印刷製本した「算式集」なるものを用意し、毎年受講生に貸与し、講義は

「算式集〇〇番であるから算式集△△番となり、右廻りの成分は算式集□□番となることが判る。」と言った調子である。算式集〇〇番と言われると、算式集の当該の式を見て、後でノートに書き写すためには何行空けるべきかを素早く勘定して、それだけ飛ばして続きをノートするのである。これでは教授がいくら「……であることが判る。」と仰つても、一生懸命ノートしている学生には何のことやらサッパリ判らない。帰ってから算式集に印刷された式を自分のノートに書き写すのが大変だった

が、その時になって多少判つてくるとのだった。

講義の形式としては、ノート講義と教科書講義に限定されたものではない。教科書がないから直ちにノートと言うわけではなかった。文科系の科目で何百人と言うような多数の学生が聴講するノート講義に対しては、ノートをガリ版印刷したもの、「プリント」なる名で内緒で売られていた。先生に見付かると著作権侵害で訴えられるので、これは総て秘密のうちに

行われた。プリント屋に自分のノートを回してアルバイト料を稼ぐチャッカリ屋の話も聞いたことがある。プリントを入手した学生はこれで勉強して試験を通ることができた。講義に出席する必要は必

ずしもなかった。法学部や経済学部のような大学部では、このようにして卒業した学生が可なりいると聞いたことがある。

ところが自然科学系の科目では、専門が細分化され一科目当りの聴講生の数が少ないため、商売として成り立たないのである。その上、ガリ版印刷には不向きな細かい図面や写真まであった。講義では、これらを大学の費用で予め印刷し、講義の度に配られた。我々の仲間ではこれを「プリント」と称していた。もし欠席する時は友達に頼んで貰つておくか、あるいは次の講義が終わった後、先生の部屋へ伺い、一言文句を聞いた上でプリントを頂くのが常であった。私は教官になってから、これらの学生を「金魚のふん」と呼んでいた。

先生の後をゾロゾロつながつて歩いて行く様を称した言葉である。ノート代用のプリントを作るとすればこの図面や写真をどうするか

問わず、教育は単に「知識の伝授」だけを目的とするものではなく、「人間性の陶冶」も大きな目的である限り、講義に出席して教授の生の声を通して、その人格に接することが重要である。そういう意味でもプリントは好ましくない。そして私だけでなく誰もが言うことだが、講義の合間に教授が話された余談が、講義より記憶にハッキリ残っていて、それに啓発されたことが大変多かった。講義に出席した余得と言うべきか、否、これこそ真の教育の成果と言うべきであろう。

話が横道に外れたので本題に戻そう。卒業前の通年の講義に清野助教担当の「量子力学」があった。内容は当時としては最先端の学問分野に属し、大変理解し難い科目であった。適当な教科書などある筈がなかった。そこで、同助教は講義の内容(原稿)をガリ版刷りのプリントにして毎時間の始めに学生に配られた。大変な労力である。(最近知ったことだが、先生の原稿をガリ版印刷したのは、字の上手な同級生が選抜されて当たったそうである。)お蔭で難解な内容であったが、プリントを見ながら先生の解説に耳を傾けることができ、私なりによく理解できたと思う。もしこれがノート講義であれば、ノートを取るのが精一杯

で、とても講義中に理解するどころの騒ぎではなかったと思う。先生のご配慮に対して深く感謝申し上げる次第である。

プリントについて、こんな経験がある。敗戦直後のこと、立命館大学の非常勤講師として2部(夜間部)の無線通信工学の講義を担当していた。時間が足りないので講義の一部をプリントにして講義をしたことがある。清野助教のことを思い浮かべながらプリント作成の作業に自らが当たった。プリントの量は清野助教のそれには到底及ばなかったが、作業を通して同助教と一部同窓生の苦勞がしみじみと偲ばれた次第である。

## ルーブルでピオラを

### 弾く(その二)

坂入武彦(昭33年卒)

著者は世界原子力発電事業者協会(略称WANON)東京センターの事務局長を長らく続け、世界中を旅行した。これは一九九五年四月にパリで開かれた総会に出席したときの旅日記である。筆者は会議の

始まる二日前に単身パリへ飛び、事前の準備をした。今日はいよいよ大会前日で、大会参加者の集まってくる日である。

次の日の朝、ちよつとうれいしことがあった。朝食を済ませて部屋に戻ったら、エレベーターホールに事務局の江上明子さんが待っていて、東京センター事務局全員の部屋番号を書いたメモを渡してくれたのであった。ついでに他の連中の様子もいろいろと聞いて心がなごんだ。このところずーっと一人で外国人に混じってきたので、久しぶりに日本人のしかも親しい女性に会ってなんだかとてもうれしかった。この日は午後から理事会があるので、午前中は自分の部でその準備をしたりした。

さて午後から理事会があったがこれが実に欲求不満の残る会議であった。これは今にはじまったことではないが、WANOではとかくパリ・センターとアトランタ・センターが主導権をとり、それを調整センターが後押しするというパターンで物事が進んでゆく場合が多い。ということはモスクワ・センターと東京センターが疎外されるということである。もともとモスクワ・センターはもともと立場が特殊で、協議に加わる必要の

ない場合が多いので、そうなると東京センターだけが取り残されてしまうことになる。そうなってはいけないと思い、私は各センターの事務局長の集まる事務局長会議では、多少嫌われても東京センターの存在を主張するようにしてきた。ところが理事会になると、東京センターの理事からは全く発言がない。言葉の問題もあるし、きおくれもあるだろうが、これでは東京センターはお客さんになってしまう。事務局長は本来理事会のメンバーではないので意見を言うてはいけないのだが、この日はどうにも我慢できず、特に発言を求めて意見を述べた。ただ、上記のような事情から、それは意見というより苦情に近いものになってしまい、聞いているほうはいやな気持ちになっただろうと思う。実はこの理事会には特に私の後任に決まっている東京電力の梅津氏がオブザーバーとして出ていたのだが、ちよつとびびくりしたらしい。

そのあと、総会の参加登録に行ったが、これがまたごたごたしていてわけがわからず、すっかりうんざりしてしまった。日本式の能率のよい処理を期待するのはそもそも無理だったのかもしれないが、スタイルのよいお嬢さんはたくさん揃ってはいるものの、所詮は日本で言えばアルバイトに過ぎず、

自分に命じられたことしかわからない。たとえば参加者はまずどこへ行って何をその次にどこへ行つて何をするのかがよくわからないのである。やつとそれらしきところを探し当てて登録しようとしたらそこでツアーの費用を集めているのでこれがまたごちゃごちゃしてちよつともはかどらない。昼間の理事会でストレスがかかっていたところにこんな目にあつてすっかり気分を悪くしてしまった。参加者はその場で写真を撮られ、その写真のついたバッジを渡されたのだが、今手元にあるそのバッジの写真を見ると世にも不機嫌な顔をしている。この日はレセプションがあったのだがまるでレセプションに出る気にならず、入り口のところでパンとサラダだけ食べてさっさと部屋に戻ってしまった。

この種の不手際は実は至る所にあり、たとえば二十二日と二十三日の朝食はWANO総会参加者には無料でちゃんと用意されていたのだが、はじめの連絡では朝食は各自でということになっていたので誰もその場所に現れず、せつかつの準備がほとんど無駄になってしまった。次の日の記者会見の際の日本語の通訳にしても、用意しますという約束を取り付けてあつたのにかかわらず、前日の理事会でパリ・センターの事務局長が、「日本語については東京センター事務局のほうで通訳してください」というのでびびくりし、それは約束が違うとねじ込んで直前になって用意させた。また、総会そのものについても、議事が予定の時間通り進まない場合、休憩後の再開の時間を決めなおしてアナウンスする必要があると思うのだがそれもなされず、何となく集まつて何となく始まるといった具合であった。

さて二十四日の朝が明けた。総会は九時からであるが、昨日までのところいろいろな処理せねばならないことが出てきたので、事務局の江上明子さんと山田愛子さんに早めにロビーに来てもらつて仕事の打ち合わせをした。江上さんと山田さんの紹介が遅れたが、まづ江上さんはWANO東京センターの創立以来のスタッフで、金銭の出納をはじめ、センターの中の事務的なこと一切をさばってくれた人である。なかなか勝ち気な人で、時に私と口論になったりしたが、それだけに仕事は間違いがなく、文字通り私のよき女房役をつとめてくれた。山田さんは江上さんに数ヶ月遅れて事務局に来ていた人であるが、外国での生活が長く、私にとつて外国人とのつきあいをしてくる上でのよい相談役で、これまた実によくやつていた

だった。私がいなくなったあとと少なくともしばらくの間は実質的にはこの二人が事務局の中心になつてもらわねばならない。

九時総会開始。ただし私は九時半からのオーケストラのリハーサルに行くつもりなので、はじめのほうだけ出て抜け出すつもりで、入り口の近くに座っていた。ひとつ興味があったのは司会のパリ・センター事務局長レオ・ペラ氏が何語で話すかということであった。というのは東京総会の時、私自身が何語で話そうかとさんざん迷ったからで、私は結局英語で通したが、一部に批判もあつたらしい。しかし、ペラ氏は迷うことなくフランス訛りの英語で話し始めたので、東京総会の時私のとつた道は正しかったのだと気をよくした。予定通り九時半少し前に会場を抜け出し、部屋に戻つて楽器をとり、リハーサルが行われるホールへ向かう。あいにく少し雨模様で、傘を持っていない私は少し濡れてしまった。今日の会場はルーブルとはいっても、カルーセル・ド・ルーブルといって、いわばルーブル博物館の別館である。昨日のうちに入り口を見つけておいたのでそこまでは問題なかったが、入つてみて驚いたのは中がずいぶん広く、しかも通路があちこちに広がっていて、どこへ行けば

よいのやらからない。幸い、案内所とおぼしきデスクがあり、お兄さんがいたので、通じるかどうかわからなかったが英語で、「オーケストラのリハーサルに行くのですが……」と聞いてみた。わかったと見えて、ついてこいという身ぶりで先に立って歩いて行くのでついていった。もっとも楽器をさげているのだからオーケストラ関係者だということは見ればわかる。ロープで通行禁止になっているようなところをすぎ、この先だというしぐさをしたので、メルシ

ーだけいってあとは一人で歩いていった。ふだんは使わないところらしく、ライトがあまりついておらずうすぐらかったが、歩いて行くにつれてまきれもないリハーサルの音が聞こえてきてうれしくなった。会場に着いた。たしかに四十人ぐらゐのオーケストラがハイドンを演奏していたが、驚いたことに会場設営がたけなわで、作業員がうろうろしているし、あちこちでおよそ非音楽的な音がしている。まあとにかく来たからにはリハーサルに参加せねばならない。楽器を取り出し、ちょうどピオラのいちばん後ろに空席があったので、そこへもぐり込んで一緒に弾いた。まもなく音楽が止まり、エテマイヤー氏がこちらを見つけてサカイリさんですかという。挨拶

をしてくださいというので、おぼつかないドイツ語で、「皆さんとお知り合いになって一緒に演奏するのをうれしく思います (Ich freue mich Sie kennenzulernen und mitzuspielen)」といったらな

まで来たところで十一時半になり、総会会場に戻らなければならなくなりました。まもなく記者会見が始まるのでそこに出席せねばならないのである。指揮者にことわりを言おうと思ったがうまいドイツ語が思い浮かばない。しかたなく英語で話したら立派な英語が返ってきた。これはあとでわかったのだが、オーケストラの団員はほとんど全員が立派な英語を話し、改めて言葉というものについての常識の違いを思い知らされたのであった。

本会議の中でちゃんと議事の一項目としてやってきた。従って形式もちゃんとしていた。ところがパ

書けないが、これについてはいろいろといきさつがあり、やっと実現したという感じだったので東京センターとしては一種の感慨があった。話される内容も、日本の原子力開発についての政策、特にブルトニウム利用に関する考え方を述べられ、世界の原子力発電関係者にしっかり聞いてもらいたかった。ところが時間がだいぶ予定を過ぎていたこともあり、荒木社長が話しているというのにウエイターがパンの皿を片づけてコーヒークップを配りはじめたのである。もちろんなるべく音を立てないようにはやっているが、皿やカップのふれあう音がどうしてもするし、大勢のウエイターがうろうろするのでうつつとうしくして仕方がない。しばらく我慢していたがとうとう我慢できなくなり、立っていつてウエイターの一人に「講演中だ。やめろ」と注意した。

リハーサルはその後も続いたが、何しろ話される言葉がすべてドイツ語なので、指揮者の言っていることが完全に理解できたとはいえない。まあしかしそこは勘を働かせて何とかついていった。ただ困ったのは、どこかでステージの照明の調整をやっているらしく、ときどきステージが暗くなってしまうのである。そんなときは団員の中でフランス語のできる人が

会場へ戻ったらちようど記者会見が始まるところであった。そしてちよつと面白かったのは、議長

がステージから落ちそうになったり、非常に混乱した。大体、署名をテーブルのどの場所で行うかがはつきりせず、結局はテーブルの一番端のところまで中腰でやるようなことになってしまい、まったく格好がつかなかった。憲章への署名というの新しい会員にとつて

ホストであるパリ・センターの関係者を差し置いて東京センターの事務局長が出しゃばったことについては批判があるかもしれない。しかし私にとっては何となく東洋人に対する軽蔑があるように感じられ、それが我慢ならなかったのである。荒木さんは日本語で話されていたので、ウエイターには何が進行中なのかわからなかったということがあるだろう。しかしこ

「明かりをつけて！」と叫ぶ。もつとも言っているのは「ルミエール、ルミエール」だけで、これなら私でもできようかというものである。

この日のランチでは二つのイベントがあった。ひとつは新会員のWANO憲章への署名、もう一つは東京電力荒木社長のスピーチであった。ところがこの二つとも設営が私には大いに不満であった。まず署名式であるが、これまでは

そのあと食事になり、大体終わった頃を見はからって荒木社長のスピーチになった。実はここには

い



れが西欧の人が講演をしていたのならばともう少し遠慮したはずである。「日本人がなにか言っているがどうせ大したことは言っていないのだらう、皿を片づけるぐらいかまうものか」という雰囲気

がたしかに感じられたのである。国際的な仕事に携わっているとこいう感じを受けることはよくある。WANOのように、みんながまったく平等で、しかもお互いによく知り合っている間柄であつても、ときどき何かの拍子にオリエ

ンタル蔑視の気配が出てきておやっと思ふことがある。思うにこいうった感情は過去何百年にわたつて形成されてきたもので、頭ではみんな同じだと思つていても何かの拍子についてくるということであらう。なお、余談であるが、

このとき参加者は二つの部屋に分けられ、別室のほうは無線で講演を聴くはずだったのが機械の調子が悪く、なんにも聞こえなかったという。日本でこんなことをしようものなら、責任者は大目玉である。(次号に続く)

### 原子力雑感

中野 廣(昭27年卒)

原子力の仕事には開発の当初か

ら40年間携わつて来ました。私を含めて5名ものクラスメートが、同じ原子力の分野に従事したのもやはり時代の要請が強かつたからでしょう。

原子力発電は人類が手にした「第三の灯」として期待され、まさに薔薇色に包まれた誕生でした。その後多少の曲折は有りましたが、

順調に開発が進み日本の電気エネルギーの1/3を賄うまでになっています。しかし、此処に来て閉そく状態になつてきたのが残念でなりません。いろいろ理由も有りますが、

洛友会の皆様は原子力の現状を理解し推進にご協力頂く事を念じて筆をとりました。  
**原子力の発展**  
先ずご理解のため発展の跡を10年単位で辿つて見る。  
昭和41年(一九六六)に東海発電所(16・6万KW)が、我が国初の商業用原子力発電所として国中の期待と注目を集めて誕生した。

私も一員として建設に参加しましたが、その記憶は今も新鮮である。  
そして第一次オイルショック後の昭和52年(一九七七)に我が四国電力伊方発電所1号機(56・6万KW)が日本で14番目として運開し、国内全出力は73万KWとなった。  
この50年代は第二次オイルシヨ

ックを含めて脱石油の尖兵として原子力のムードが高まり、伊方2号機(56・6万KW 昭和57年)も含めて昭和62年(一九八七)には35基、2788万KW(電源構成比率17%)にまで発展した。

続く60年代そして平成年間はずエルノヴィル発電所(旧ソ連、ウクライナ)の事故などで翳りがみえつつも、昨一九九七年には伊方3号機(89万KW 平成6年)を併せて52基、4500KW、発電量にして35%を占めるまでとなり、アメリカ、フランスに次いで世界第3位に進んだ。

**成功の復讐そして原子力の停滞**  
昨年末の地球温暖化防止京都会議では、二〇一〇年迄の6%削減目標が合意された。そしてこの厳しい目標達成には20基の原子炉増設が不可欠であるにも拘わらず、それが話題にもならなかった。否むしろ故意に避けられたとしか思へない状態である。

ゆつくり進行する温暖化には遠い先の事と反応が鈍いのかもしれない。勿論チェルノヴィル事故や「もんじゅ」などの動燃問題も大きな要因であるが、更には技術や社会状況が大きな環境サイクルの重大なターニング・ポイントにさしかかっているではなからうか。  
最近のテクノ情報誌の巻頭言  
見えない敵「成功の復讐」

が原子力の現状を悔しいほど鮮明に言い当てると思われるのでご紹介したい。

人は成功した時こそ、初心を忘れず余程厳しく自戒しない限り、必ず酷い報復を覚悟しなければいけない。今日は、戦後の素晴らしい繁栄から一転してバブルの混乱を取捨できず「成功の復讐」に苛まれているのではないだろうか。繁栄と安定を築いてきた企業においても然りと見解です。まさに原子力においても同様であり、この復讐の克服について私なりに考えて見たい。

現在の閉そく状態の下においても、立地以来築かれてきた周辺地域との信頼関係は未だ揺らいでいないと思う。この関係を何とかして県域にまで拡げ、冷たい批判のムードを取り払いたい。

「もんじゅ」以来、マスコミの影響や自治体の国への不信表明も含めて今までの無関心層が急速に不安層に傾いている。  
これを解決するには、従来のPAも勿論であるが、基地問題で揺れる最近の沖縄の状況から見て、県レベルでも自信を持つて不安解消に動ける方策が重要だと思われる。国との信頼関係改善のため、国レベルでの「開かれた原子力政策」への転換は無論のこと、それと共に「原子力推進が県レベルの政治

的満足度を十分充足できる施策」のような、県が原子力に対して自信を持てるような方法が必要でなからうか。  
それにより信頼される県の機関などによる評価が積極的に行われれば信頼感急速に回復するのではないだろうか。

そうなれば、少し暴言になるかも知れないが、発電所側もノートラブル主義によるコチコチの緊張感から解放され、その余裕が反つてノートラブルの方向に進むものと思われる。

東海発電所も3月で30余年の任務を終える。本当にご苦労さまでした。それを引継いで原子力は温暖化防止の中核として核燃料サイクルも含めて来るべき21世紀に向かって再出発である。険しい道であらう。

昭和30年代の初心を思い起こし自信をもって前進して欲しい。

### スペイン旅行記

北原敏行(昭48年卒)

大学を卒業し会社に入社してから20年間、日々の生活に追われて自分自身を振りかえる機会がなかったが、やっとその機会が3年前訪れた。

同窓会だより

『青芝会(昭19卒)総会』

会社では節目休暇というのが設けられることになり、1995年4月～1996年3月の間に1ヵ月間休暇(20年目の休暇として)を取得することができ、スペインへ旅行した。

(感想)

南国の陽気な雰囲気は、日常のたまったものを洗い流してくれた。世界は広いと思った。おかげで小さなことをよくよせず、おらかな気持ちになれるようになった。この旅行の後、いい調子なのである。今回、この節目休暇を契機として今までの生活に対する考え方を大きく方向転換することができた。

伊勢神宮の式年遷宮、平安奠都一三〇〇年記念総会に続き、昨陽春の4月伊豆湯河原温泉郷に夫人・令嬢8名を合せて24名、年度総会を開く。会場は湯河原温泉天野屋本館、最近の華美な高層ホテルと違って近代的な中にも古風な木造づくりの純日本風旅館である。又幸運にもこの日は休日明けの平日に加えて最近の伊豆半島地震の余波もあつて全館貸切、久し振り

に昔ながらの温泉気分を満喫させてもらった。料理も一流且エコノミカルなのが何よりであった。紹介者は竹下君、一同同君に感謝したものである。



の運びに、大嶋会長は炎天下の祇園祭で山鉦の先頭に立って巡行等の報告があつた一方、脳梗塞や心不全特に腰痛の悩み話もあり、今後一層の健康と精進を申し合せた。特に九州の永山夫妻、四国露木父娘、中国守分君など遠隔地の諸君の近況、東京ゴルフ会の報告が松岡君より行われ、あとは酒を酌み交わし乍らの自由歓談の場となつた。

ここ湯河原温泉は歴史が古く、7世紀時代より湯治場として知られ万葉集にも登場する日本最古の温泉の一つで薬師の湯と呼ばれ、多くの文人画家作家では国木田独步、夏目漱石、島崎藤村、志賀直哉、芥川龍之介、歌人野野性、横山晶子夫妻、画家竹内栖鳳、横山大観、安井曾太郎等が屢々訪れ創作を練つたものである。又、奈良薬師寺の行基上人や弘法大師が開かれたとの説があるが、地元古い説話に、獵師に矢を射られた狸が岩間から湧き出る湯で傷を洗つたところ忽ちにして治り「これこそ神仏の御加護」と以後美女に姿を変えて近在の病人旅人を温泉に誘ひ治癒に當つたとあり、町立万葉公園には狸の奇特を語り継いだ狸福神社がある。

寺、万葉の歌にある草花80種類を超える万葉公園、葦葺き茶亭万葉亭、独歩の歌碑等見所が多い。特に、旅館天野屋は湯河原の歴史そのもので、伊藤博文、洪沢栄一、犬養木堂、漱石、日本画の大観、栖鳳、洋画安井曾太郎等が想い出を書画に留めている。天野屋の岫雲楼は陶淵明の詩「歸去來の詩」の一節「雲心無く岫を出で鳥飛ぶに倦んで還るを知る」から借用したので「雲は無心に山の窪みより湧き出て」の意とされる。明治の東久世伯爵がここで静養され土肥の山々、箱根の峰々に去来する白雲を眺められての感慨であろう。

総会は今回の幹事役武藤東京支部長の司会で進められ、大嶋会長の挨拶と乾杯、武藤と関西支部長松本肇君の現況報告、特に全員の健康状態が詳しく報告された。喜寿を越え傘寿に近づいた全員の最大の関心の一つは矢張り健康の問題であらう。幸い諸兄は矍鑠たるもので北島教授は海外学術会議への出席、NECの金田弘君は図書「科学の進化と生命の危険」21世紀の国家像を求めて」(NECクリエティブ社出版)を脱稿出版

町には源頼朝の挙兵を助けた土肥一族の菩提寺で樹齢80年の天然記念物ビヤクシンが聳り立つ城願寺、万葉の歌にある草花80種類を超える万葉公園、葦葺き茶亭万葉亭、独歩の歌碑等見所が多い。特に、旅館天野屋は湯河原の歴史そのもので、伊藤博文、洪沢栄一、犬養木堂、漱石、日本画の大観、栖鳳、洋画安井曾太郎等が想い出を書画に留めている。天野屋の岫雲楼は陶淵明の詩「歸去來の詩」の一節「雲心無く岫を出で鳥飛ぶに倦んで還るを知る」から借用したので「雲は無心に山の窪みより湧き出て」の意とされる。明治の東久世伯爵がここで静養され土肥の山々、箱根の峰々に去来する白雲を眺められての感慨であろう。

追記) 再会を約して元気に別れた我等の貴公子、京極家の京極君(元日本電気株)が翌日正午虚血性心不全で急逝された。享年77。恰も会員諸君に最後の別れを告げに來られたようであった。同じテーブルで朝食を摂つたあの時の端麗な顔と微笑みが臉に浮び正に

旅行期間	1995年4月12日～4月20日	ホテル8泊
場所	関西空港 → パリ → 「マドリッド、トレド、チンチョン」(以降スペイン)《中部》→ 「コルドバ、セビーリヤ、グラナダ」《南部》→ 「バルセロナ」《北部》→ パリ → 関西空港	(フランス) (スペイン) (フランス)
同行者	1) 中学時代の友人2人 2) 高校時代の同級生で、現在スペインに定住している人に車で案内して頂いた。	計4人
印象に残った主な事柄	1) プラド美術館 「着衣のマハ」と「裸のマハ」が展示されていた。(大学生時代に京都市立美術館で見たことがあるなつかしい絵である。) 2) ジプシーによるフラメンコの踊り 3) 聖家族教会 4) パエーリヤ料理 ・ワインを飲みながら食事をした。 ・車での移動の途中、カフェテリアでエスプレッソコーヒーを飲み休憩した。 ・パスポートを常に身体から離さず、盗まれないように気をつけた。	(マドリッド)  (グラナダ) (バルセロナ) (バレンシア)  -
この旅行を思い立った理由	友達の不幸があり、気持ちを切り替えないと駄目だと思い旅行をした。偶然スペインに知り合いがいるから行こうということになった。	

信じられない心情である。会員諸兄と共に心より冥福を祈る。

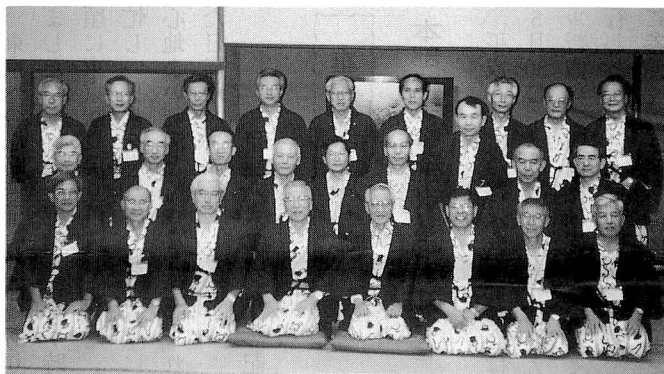
合掌

大嶋幸一・武藤正(昭19年卒)記

### 卒業35周年記念同窓会

ハナの昭和37年卒業組が5年ぶりに参集、卒業35周年記念同窓会を開催しました。昨年の、秋も深まる11月15日、場所は伊豆・伊東市の割烹おん宿、つい1週間程前囲基名人戦の決着がついた対局場にもなった所。ありがたいことに近藤・坂井両恩師がご都合お付け下さってのご出席を頂戴し、同窓生25名の集合となりました。

両名誉教授の直なるスピーチに接しましては、卒業以来想いも浮かべなかつたことまでが次から次へと、教室内のことに限らず、走馬灯の如く、また特に短かくとお願ひした同窓生のスピーチからは、各自の年輪論やら体験則を気持ち良く触れあわせ合うことができた次第です。はじめに付けた念のための名札もかくしていっしかな不要のものになりました。  
冥たけなわの頃、ビッグニュース1本到来。母校の新総長が決定を見た。我々が学部学生頃の、同じ教室の助手であられたと言うだけで、感銘倍増、今後のご活躍



をごく自然に期待させていただきました。

当日残念ながら参集頂けなかつた同窓生からは海外からの分も含めまして、多くのメッセージが寄せられました。共通的にはいわば社会人第1期(?)現役としての総仕上げ(?)に没頭中なのだと思われされました。今回35周年を迎えて集まり、意気軒昂ぶりを確認し合いました。次ぎなる40周年を迎える時は第2期に足を踏み入れていくケースが多いのではないかと、これは今から楽しみ。  
一次会を打ち上げた後、もはや古典的お定まりコースと言うべきか、館内カラオケルームへ。学生

時代より發揮していた才能をそのまま育て上げてきた者、明らかに萎えさせた者、卒業後努力した者、たかがこの道(?)だけでも人生の色々さ実に豊か、ルームはすっかり盛り上がりきって笑いの渦、名誉教授におかれましても例外にはあらず、恩師と同窓生なら集まればこれができるのだ、と実感しました。

すっかり、ラシサを取り戻しての朝食、解散の後有志がゴルフ。前夜の疲れは豊富なスコアとなつて、その結果を示しました。ハナの37年組は元氣溼刺でありますこと、充分確認致しました。本会の皆様にも報告申し上げます。  
松尾壹郎(昭37年卒)記

#### 支部だより

#### 東京支部旅行会

前日までの雨もあがりました平成9年11月30日(日曜日)、毎年恒例となつています東京支部旅行会を開催しました。副支部長の三橋氏以下総勢27名で、東京駅新丸ビル前から貸し切りバスに乗り込み午前8時40分頃出発し、美しい富士山を時折眺めながら、首都高速、東名高速を順調に抜け、一路、中伊豆へと向かいました。

## 平成10年度洛友会総会通知

一、年月日

平成10年5月30日(土)

一、場所

天王寺都ホテル新館  
(JR天王寺駅東口前)

TEL 06-628-3200

一、行事

受付 15:00~

関西支部総会 15:30~16:10

本部総会 16:10~16:50

懇親会 17:10~18:30

一、会費

会員 四、〇〇〇円

同伴者 一、〇〇〇円

ただし平成10年3月卒業生は無料会費は当日受付にてお支払い下さい。

なお、これで総会出席通知に代えますので、ご出席の方は5月10日までにご連絡をお願いします。本会へはご家族同伴を歓迎しますので、多数お誘い合せの上ご出席下さい。



11時頃伊豆洋らんパークに到着(写真)。色とりどりの洋らん等を鑑賞、こんなに色々な種類の洋らんがあるのかと驚きながらも目と鼻の保養をしました。その後食卓を皆で囲み、美味しい和食で今度は舌と喉を楽しませました。旭化成の酒類工場へと向かいました。日曜日のためあいにく実際に稼働中のお酒の製造工程は見られませんでした。日本酒の酒米とグレイドの違いの解説や、ビデオによる製造工程の説明、工場で作られている各種のお酒の話など、大変

興味深い内容の説明を聞きました。この案内嬢による説明が非常に巧みであり、話術に優れ、時には大爆笑の渦となり、皆さんの頭もほぐれてきたようでした。続く各種お酒の試飲では、皆、色々なお酒を次から次へと利き酒し、ほろ酔い加減になりました。また、この良い気分を自宅まで持ち帰るべく、お酒をたくさんお土産に買い込む人も多かったようです。

酒類工場ですっかりいい気分になった後、近くの温泉へ向かいました。露天風呂や薬草風呂などにゆつくりとつかり、今度は肌から全身をほぐし、すっかりとくつろぎ良い気持ちになりました。

東京への帰路若干の渋滞はありましたが、ほぼ予定通り午後7時頃に東京駅に戻り解散しました。忙しい日常を忘れ、全身と五感に心地よい刺激とくつろぎが得られた日帰りバス旅行でした。

伊藤八大(昭54年卒)記

**事務局だより**

**本部総会・支部総会のお知らせ**

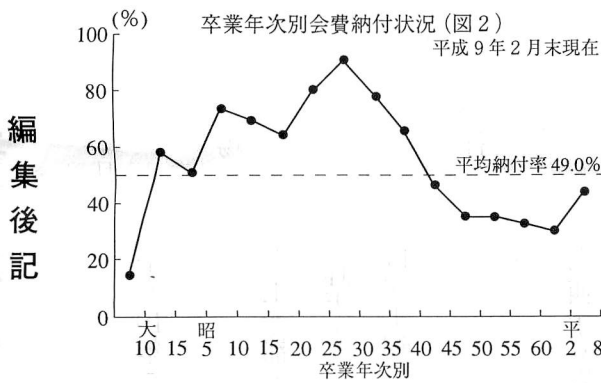
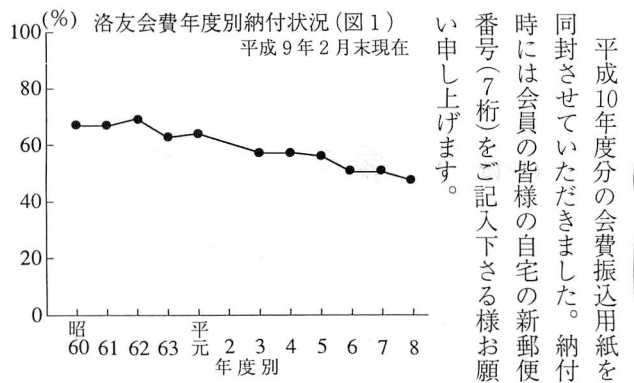
平成10年度の洛友会本部総会は5月30日(土)、大阪天王寺都ホテル新館にて関西支部総会と合同で行われます。(詳細は別掲記事をご参照ください)

会員の皆様のご出席をお待ちしております。また、各支部の総会日程は左記のとおり予定されております。詳しくは各支部の幹事さんにお問合わせ下さい。

**洛友会会費納付状況について**

**状況について**

平成9年度の会計事務も皆様のご協力により完了いたしました。平成10年2月末日現在の会員数は6、141名で、平成9年4月以降に会費を納付していただいた会員数(B)は2、994名でした。納付率(B/A×100)は48・8%で図2に示したように平成3年度より漸減傾向で推移しています。また図1に示したように卒業年次別では昭和45年以降の若い会員の納付率の低調が全体を引下げています。皆様の会費を基に名簿・会報の発行を始め洛友会活動を活性化するため一段のご協力をお願い申し上げます。



今春目出たくご卒業され、新しく会員になられた方々には衷心よりお祝い申し上げます。春号も近藤東京支部長様を始め、多くの会員の方々からのご投稿により予定通りお届けすることが出来、有難く感謝申し上げます。今年度は諸般の事情により年間3回の発行を予定しており、次回は7月(原稿は6月10日まで)で特に東京・北海道・北陸・中国支部の皆様方からのご投稿をお待ち致しておりますのでよろしく。

事務局 松本博

**訃報**

講大12	松本敏男	9・8・27
昭4	高木金生	9・2・23
講昭6	上田徳治	8
昭6	西本憲三	9・9・17
講昭6	足田定得	10・2・13
昭7	浅田英直	8・11・4
講昭7	竹内清次	9・10・11
昭12	鈴木 洌	9・7
昭18	荒井清次	10・2・13
昭24	佐野喜蔵	9・12・14
昭26	竹山 宏	9・11・7
昭29	船越利昭	9・12・20
昭31	小林 亮	8・8・10

以上の方々のご逝去をさしました。謹んで哀悼の意を表します。

**編集後記**

本年も桜前線が一気に駆け抜け、青葉の季節を迎えました。